

水拓

第卅九号昭和卅四年十一月十五日発行
毎月十五日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

十一月



(第四回兵庫県漁業協同組合婦人部大会)

兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

水産ニュース

神戸市西部

漁業協同組合が発足

神戸市水産振興五カ年計画の一策として漁業協同組合の合併問題が取上げられていたが、本年三月頃より神戸市西部(駒ヶ林浦より舞子まで)七漁業協同組合の合併について、関係組合間において検討中であつたが、このたびいよいよ合併の運びとなり、去る十月十六日に設立の認可があり十月十七日須磨水族館で創立記念大会が催され、ここに漸く神戸市西部漁業協同組合として発足することになつた。

事務所

本所 神戸市長田区駒ヶ林町

(旧駒ヶ林浦漁業協同組合)

支所 神戸市垂水区東垂水町

(旧東垂水漁業協同組合)

役員

組合長 池野喜太郎

副組合長 山田 岸松

専務理事 小田 弥助

理事 浜崎 種市、東畑 弥一

福田友太良、福田力太郎

小河 六平、森本 幸七
 信川 利治、信川 一男
 谷口 数馬、浜田 浜松
 北谷源三郎、中村 勝
 小島松次郎、大西 正
 監事 室田 一雄、森田 元芳
 信川 純男、

組合員 四〇〇名
 組合職員 一五名

なお組合事業として、販売、信用、購買、利用、加工、指導事業が行われており、将来は厚生事業等についても計画されている。

新しく発足した。神戸市西部漁業協同組合の今後には各方面より大きな期待がよせられている。

第一兵庫丸第三次航海を終る

○第一次航海

第一兵庫丸はその後、東支那海で操業中のところ、十八号台風接近に伴い十月十三日以降他船団と共に北上を続けていたが、同月十五日やむなく操業途中にして博多港に退避入港、第一次航海を終了し、翌十六日福岡中央市場に左の通り水揚げした。

漁獲数量 約一一、〇〇〇疋
 漁獲金額 約六〇〇、〇〇〇円

○第二次航海
 引続き十九号台風の襲来を博多港

において回避し、十月十九日夜半東支那海に向け出港、十月三十一日鹿児島に入港第二次航海を終了し、鹿児島中央市場に水揚げしたが、市況は巾着網の豊漁と合致して相場は下落していたが、その後市況も徐々に持ち直しつつある現状である。

漁獲数量 約一八、〇〇〇疋
 漁獲金額 約六九〇、〇〇〇円

○第三次航海

十一月一日夕刻鹿児島を出港、勇躍東支那海に向け第三次航海の途につき、去る九日約三三、〇〇〇疋を漁獲して、同日早朝漁場を切揚げ目下鹿児島に向け航行中である。

誤植訂正

先月(十月)発行の拓水「漁協共販の運営について」の文中で左記の通り誤植がありますので訂正いたします。(編集部)

誤 正

三頁の二段目 売掛金を一年 売掛金を二年
 間を放つておき、間放つておき
 四頁の二段目
 支有権 所有権

目次

水産ニュース	1
第四回兵庫県漁業協同組合 婦人部大会開催さる	2
家庭の中の 話あいから	4
漁家の生計	6
十二本の調査の柱	11
漁村の簡易加工 婦人部副業には最適	14
ある漁協職員の 楽 餓 鬼 張	16
内海漁連設立十周年 記念式挙行さる	18

第四回兵庫県漁業協同組合

婦人部大会開催さる

第四回兵庫県漁業協同組合婦人部大会は去る十月二十日午前九時三十分より水産会館において、兵庫県漁協婦人部連合会の主催によつて催され、兵庫県知事を始め来賓多数が臨席のうえ、関係者約三五〇名が参集のもとに盛大に開催された。

漁協婦人部大会も今回の大会をもつて四回目を迎えたのであるが、過去三回は県漁連及び改良普及協会等各々の関係団体で主催されてきたが、今年からは県漁連の発足により、県下漁協婦人部の連合組織体である県漁婦連の主催で催することになったことは、まことに意義深いものであり且、県下の漁協婦人部が一段とその進歩を示したものと見えるであろう。

また全国においても、去る九月二十一日に開催された全回漁協婦人部大会において、全国漁協婦人部連絡協議会が結成されるなど、漁協婦人部の組織も全国的なつながりをもつに至つてゐる。

以下第四回兵庫県漁業協同組合婦人部大会の模様を簡単に記すと……。



九時三十分大会の開会にあたり、県漁協婦人部連合会長の魚井幸代さんより開会の挨拶があり、続いて来賓祝辞として兵庫県知事、全国漁業協同組合連合会長、農林中央金庫神戸事務所長、兵庫県漁業協同組合連合会長、兵庫県信用漁業協同組合連合会長よりそれぞれ祝辞があつて、大会経過報告ののち、表彰状の伝達があつた。

この表彰は過般の全国漁協婦人部大会において、全国漁業協同組合連合会長より優良婦人部として、表彰されたもので本県関係は次の通りである。

阿閉村本荘漁業協同組合婦人部
柴山港漁業協同組合婦人部
(以上二団体)

大会の議事に入り、過般東京で開催された全国漁協婦人部大会の参加

報告があつて、午前中の議事を終り、午後からは本年度始めてのこころみとして分科会が開かれ、参集者はそれぞれ三分科に別れて二時間にわたり熱心に討議された。

分科会のテーマ

第一分科会

漁協の中に於ける婦人部活動について。

第二分科会

漁家生活の計画化(予算生活)について。

第三分科会

漁村婦人の経済的、社会的地位の向上をいかにしてするか。

以上三つの問題について討議され、午後二時分科会を終了したが、分科会の討議結果をとりまとめると、全国漁業協同組合連合会の組合間、金融部の野中次長より「漁協婦人部活動のあり方」について講演がありその後、分科会の討議結果を各分科会毎に発表した。

分科会報告

第一分科会

「漁協の中における婦人部活動について」この問題については、先ずどんな活動を婦人部が行つてい

か、ということについては、日用品の取扱い、生活改善として環境衛生、講演会、映画会、漁村児童の輔導、食生活の改善、内職としての簡易水産加工、漁獲物の荷揚作業等を行なつてゐるが、購買事業等については、せまい漁村においてのことであり、いろいろと困難な問題があるが婦人部としては、組合を通じて事業を行うこと。また婦人部の仕事は漁協とどうつながつてゐるか、の点については、婦人部としては漁協の事業(信用事業を主として)に協力しており、漁協から婦人部活動資金の借入や、婦人部活動に対する助成金等経済的な援助を受けており、また精神的な面においては漁協側として、婦人部員を組合員の一部のように考へて協力を期待してゐる。漁協と婦人部とのつながりを今後さらに強くするにはどうしたらよいかについては、漁協の役員の中に婦人部担当の役員を二、三名おいてもらいたいこと、また漁協の役員と婦人部役員との協議会等を、少くとも年一回以上は開くなどによつて、漁協と婦人部のつながりをより強くするよう

第二分科会

「漁家生活の計画化(予算生活)

について」、現在のようによつて予算生活をしていくかということであるが、但馬地区においては水揚仕切金の勘定であり、それぞれの漁家にあつては家計簿を記帳して、一応予算生活が行われているが、内海地区においては(予算生活をしていくところも一部あるが)水揚仕切金の勘定も個々の組合によつて、十日、五日、毎日勘定とまちまちであり、全体としては予算生活をしている漁家は少ないが、やはり内海側としても、こうした水揚仕切金の勘定日のできるだけ延長する方向にもつてゆく必要がある、予算生活のしやすい体制を整えるべきである。

そこでどうしたら予算生活をする漁家をふやすことが出来るかということであるが、漁家収入が少ないため一般に予算生活することは困難であり、まず漁家収入の増加である。そのためには副業とかいろいろの方法によつて、漁家収入の増加をはかることを考えなければならぬ。だが収入の少ない漁家においても、中央金庫の所長さんの話にも、あつたごとく、一、三、五、一運動の線によつて、収入の一割は税金三割は生産費、五割を生活費とし残り一割は貯蓄するという方法であり、こうした方法によつてできるだけ予算生活をする漁家をふやすようにしなければならぬ。

では予算生活をするためには、どうしたらよいかということであるが、それには例えば、十円貯金にしても今までであると、一年すぎて積立の満期がくると全部引出していたものを、せめて三年間は据置いて手をつけなくておこうということ、即ち貯蓄意欲を高める。また日用品なども現在、私たちの買っている価格よりも安く手に入れるため、漁家、漁連等系統を通じて安く手に入るようにする等支出を極力減少する。一方にはまず家計簿の記帳(家計簿の記帳をしている漁家は少ないと思われる)を励行することが必要である。

「漁村婦人の経済的、社会的地位の向上をいかにしてするか」この問題についてはなかなか実行にうつしがたいことで家族的、社会的な意見が出たが、まず漁村婦人の地位を極めるにはどういうことをしているかについては、それぞれの婦人部においては大なり小なりの料理講習会、修養講座などを開き、婦人部員の素質向上をはかっている。

そこで地位を向上させる上において障害となつていることは何か、という点については、私たち漁村婦人は働きがほしいために集まる機会が少なくそのため、かなりおくれをとつている。そこで会合に出やすい雰囲気を作り出すには、自覚と周囲から理解されるようにそれぞれが努力しなければならぬということである。

本大会における

決議事項並びに要望事項

大会決議事項

- 1、購売品の取扱は漁協を通じて行ないましょう。
- 2、水揚仕切金の勘定日の延長に協力しましょう。
- 3、予算生活の第一歩はまず家計簿を記帳することであるから、家計簿の記帳を励行しましょう。
- 4、十円貯金の三年据置をしましょう。
- 6、各種話し合いの会合をつとめて多くもつようにすると共に、時間励行をお互いに守りましょう。

要望事項

- 1、漁業協同組合役員の中に婦人部担当の役員を二〜三名置いていただくと共に、また少なくとも年一回以上組合役員と婦人部役員との協議会を催しするなど、漁協と婦人部とのつながりを強くしていただきたい。
- 2、漁連の購買品(日用品)が市価のものより高いものがある場合があるが、これについてはよく御検討をお願いしたい。

3、婦人部の育成指導のために専門指導員の設置を、政府及び県当局に強力をお願いすると同時に、各単協におきましても、年配の婦人職員の設置をお願いしたい。

大会宣言

わたくしたち漁協婦人部は、五年前に県下三つの漁村にその組織が生まれたことに始まり、その後においてこの運動は急速に進展し、本年11月には県漁婦連の結成をみるまでに発展するに至りましたが、この間わたくしたち婦人部はそれぞれの漁村において婦人部活動に懸命の努力をしてみまいりました。

兵庫県漁業協同組合婦人部大会も本大会をもつて四回を数えますが、この大会を契機といたしましてわたくしたち漁村婦人にかせられた明日への使命は如何に重大であるかを再認識いたしますとともに、わたくしたち婦人部は相ともに力を合わせ、漁業協同組合を中心として、生産活動並びに生活の合理化等漁協婦人部本来の目的に向つて励み、明るい村づくり運動をさらに強く展開することを誓います。

右宣言します。

昭和三十四年十月二十日

第四回

兵庫県漁業協同組合婦人部大会

× × ×

以上のように力強い宣言ののち、出席者一同によつて「漁協婦人部の

歌」を斉唱し、県漁婦連副会長の閉会の辞によつて、ここに第四回兵庫県漁業協同組合婦人部大会も盛會裡に閉会された。(了)

家庭の中の話あいから

第三回全国漁協婦人部大会

九月二十一日より三日間、東京で全漁連主催でひらかれたこの大会の様子を簡単にお知らせしましょう。

一見、振出しに戻る

この大会の大きな特徴は、ちよつとみると、あまりに地味で、初歩的で、決議の結果だけみると、一見、振出しに戻ったようにみえるかもしれないませんが、実は、これがとても大きな収穫でした。いままでの、第一回、第二回の大会が主催者、全漁連の方で用意してもらった議題を討議したのにならして、こんどは、全国の代表たちがよって話あったなかから生みだした結論であるからです。

家計簿を書く前に

家の経済を合理化するために、家

さえてお金を活かしてつかうようになって、そしてはじめて家計簿を苦心してつける意味があるのです。こんなことはみなさんがよく知っています。しかもなお家計簿をつける人がとても少ない。それはなぜでしょうか。

月はじめの家族会議

それは、家族みんなで話しあうことです。月のはじめに、主婦が家族みんなに集ってもらいます。その様子を録音風に書いてみましょうか。

妻 「これから十一月の予算をたてようと思うのですが、みんなのほしいもの、要るものをいって下さい」
夫 「おれは、ハダ着がほしいな」
長男 「毛糸のシヤケツをひとつ」
おじい 「今月は本家の法事がるぞ」
おばば 「去年アンカがこわれたままじゃ」
次男 「中学校の旅行がある」
妻 「お父さん、水揚はいくらくらい見込めようかの？」
夫 「去年よりもちいと良からうか

計簿をつけましょう、ということはいままで何度もいわれました。しかし、漁村で家計簿をつけている人は、少ないのでないでしょうか。それはなぜでしょうか。

「メンドウだから……」
「いそがしいから……」
「面白くないから……」
いろいろな答があるでしょう。みな本当でしょう。家計簿をつけること、それ自体は手段にすぎません。家計簿をどんなにキチンとつけても一円だつてもうかるわけではありません。(もっとも、農林省の漁家経済調査や、県の沿岸漁業集約経営調査に協力すればお礼がもらえますけれども……)。

家計簿をつけて、それを反省し、家計の予算をたて、ムダな支出をお

な。いわしがまだみえとるでノ」
と、こんな風にみんなの希望をきき、それを集計してみます。その上でソロバンをはじめてみた妻は
妻 「もう二千円くらい節約できんかしら」

おばば 「そうじゃな、アンカは来月まわしにできんか」

おじじ 「そりやだめじゃ。どうせ買わんならん物じゃ。十二月にしても別に水揚げがあるわけじゃなし」
夫 「次郎の旅行は行かせてやりた

いから、おれのハダ着はガマンする」

次男 「ばくも旅行の小づかいは、自分でとった貝を売って稼ぐから、千円がとこ節約しよう」
おじじ 「そうか、わしも手伝うてやるぞ」

……………
こうして家族みんなで作った予算は家族の協力で守ってゆくことができるでしょう。主婦ひとり、家計簿を前にしてくるしむことがなくなりません。こんな風に、一軒一軒の家庭のなかで育った話あいの習慣が家の外では部落のものに、漁協婦人部に、さらに県の連合会に、そして全国にまで広められてゆくのです。
ある北海道代表の婦人は、こんな

にして家中でつける家計簿の楽しさをとてロマンチックに表現して、こういいました。

「家計簿を書くエンピツの先に、わたしの幸福が宿ります」

婦人部は「時間厳守」から

婦人部の集りがあるといっても、なかなか家庭からぬけ出ることができないので、いつも寄りが悪い、というのをよくききます。これをどうしたらよいか？大会で話合った結論はこうでした。

一、何時にはじまって何時に終るといふはじめと終りの時間をきめて、これをよく守ること

二、何でもよい、精神的な「おみやげ」をもって帰ること。婦人部の集りで話あうことのなかから実生活の役にたつ暮しのチエをつかんで帰り、家族へのおみやげ話とすること。

婦人部が大切といっても、それが婦人部の独走になってはいけません。そのためには、まず家族の協力が大切です。家で主婦の帰りを待っている、おじじ、おばば、夫、子どもに何かみやげ話のひとつもできるような、そんな集りを計画するうちに……と、これは婦人部の役員さんたちに役に立つ結論がうまれます

た。

組合にとけこんだ婦人部

全国からたくさん代表者がいるいろいろな報告をしましたが、そのうちとくに私たちの心に残ったことにこんな話がありました。

これは山口県の水にとても不自由なある漁村にあったことです。兵庫県でも水の不自由な漁村はたくさんありますが、水の不自由なことほど困るものはありません。水汲みが主婦にとっても過重な労力です。

そのために内職はできないし、洗濯も充分できず、おいしい料理をつくるに家族をよるこぼすこともできません。万一、おそろしい伝染病がはやったりしたら大変です。病人が出たらちはもちろんのこと、伝染病が発生しは漁村は、魚を売ることができません。収入ストップです。

山口県その漁村でも、水の不自由なことではいろいろな苦しみをなめたあと、ついに婦人部が決議をいたしました。それはなんでもなくごく普通のことです。

一日十円貯金

そうなんです。あちらこちらでよくやっていることです。だが感心するのはその先です。何十軒もの家が三年間これをつづけました。そしてだ

れもこれを引出さなかったのです。貯金は、もちろん漁協へあずけました。三年間で貯金は百万円をこえました。漁協は、この資金をもとに、県や町の補助金をプラスしてついに主婦たちが希望した簡易水道をひくことができました。

この漁協の人は今でも十円貯金をしています。誰もひき出す人はありません。ひき出そうにもひき出せません。組合はそのお金を水道づくりに投資しているのですから。だが、やがて、水道料が組合に積立てられてゆけば、婦人たちの不時の払戻し要求にも応じられることでしょう。

一方、一軒一軒の家は、今さらのように水道のありがたさをよるこぼしました。水汲みという辛い仕事はなくなっただけでありません。内職や畑仕事を今までよりもっとたくさんやることができます。収入はふえました。病気などのつまらない支出がなくなりしました。新たに水道代を払うのですが、それくらいは問題ではありません。主婦がつくった水道、というので、この婦人部の人々はとてもはりあいを感じているそうです。
この記事は、九月二十四日NHKの「漁村の皆さん」の放送を要約したものです。

漁家の生計

沿岸漁業振興総合対策立案調査から

水産行政の基本は、漁業経営の安定と漁民生活の向上を目的としていることはいうまでもないことである。最近の沿岸漁業は、年々不振で漁家の生活は深刻化しているという声がよく聞かれる。これには幾多の要因があげられるがその窮乏しているといわれる漁家の生活状態や漁業の経営状況が数字で充分明らかにされていないのが現状である。これらを究明するには多くの費用と労力を必要とするが幸い、今年の三月と五月に水産庁と共同して行なつた沿岸漁業振興総合対策事業の計画立案調査のうち漁家調査の資料を得たので不十分ではあるが、これらをまとめて本県内海沿岸漁家の経済状況の概要を述べ参考供したい。

一、調査地と調査方法

この調査は、神戸、明石、御津、家島、洲本、淡路、北淡、南淡の各市町村と関係漁協一六組合の協力を

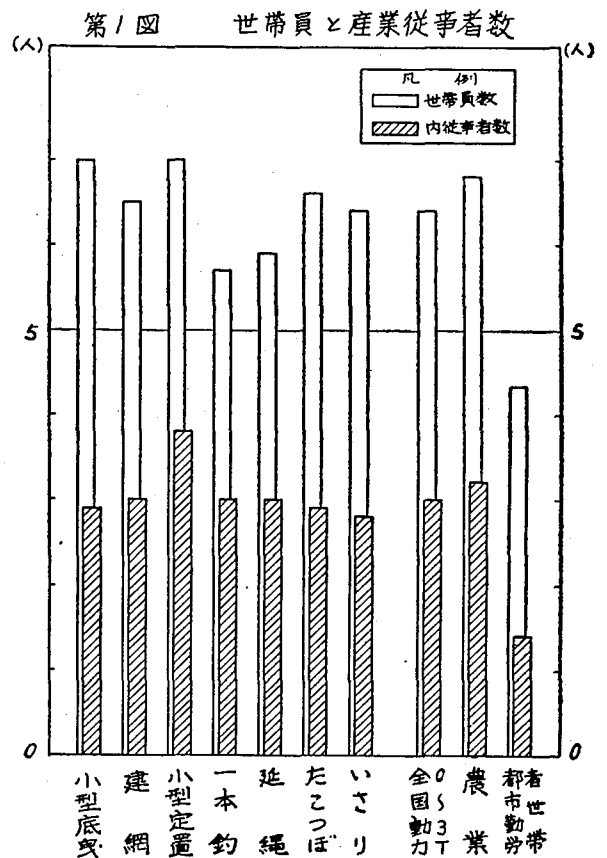
得て各組合毎に漁業収入状態により上、中、下の各層から六八戸の漁家を抽出し、昭和三十三年中の①土地及び家屋の状況、②漁船及び漁具、③漁業操業状況、④家族及び就労状況、⑤漁業収支、⑥漁家の収支等について各戸に面接聴取り記入する方法で行なつた。

二、調査の結果

調査の結果を各事項別に図で示し、全国平均や他産業と比較して解説してみたい。

1、世帯員の状況

第一図は、漁家の世帯員数と有業人員数(世帯員のうち何等かの産業に従事した者)を示したものである。(1) 世帯員の最も多いのは小型底びきと小型定置の七人で最も少ない一本釣の五・七人で平均六・五人である。(全国平均六・四人)
(2) このうち働いている者は、小型定置の三・八人(全国平均四人)



が最も多く最少はいさりの二・八人である。平均すると三・一人で世帯員の約半分が何らかの産業に従事していることになる。

2、世帯員の産業従事状況

第二図は、世帯員のうち有業者がどの産業に従事しているかを示したものである。(1) 各業態とも漁業に従事(自家、共同、被用)している者が最も多いことはいうまでもない。建網の一・五人が最多で最少は一本釣の二・三人(全国〇・三トシ階層平均二人)である。

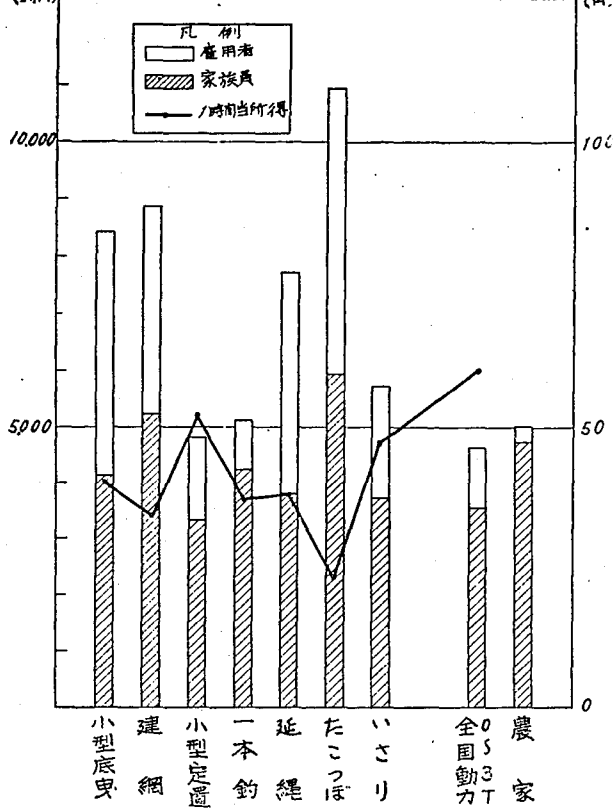
(2) 自家経営の漁業に従事する者は、全従事者の五五%~七七%を占め家族労働による漁家が多い。

(3) 漁業に次いで他産業の被用が多く世帯員中〇・六人の子女が漁業以外の産業に従事している。その他の事業は農業が多く、商業、家庭内職等がある。

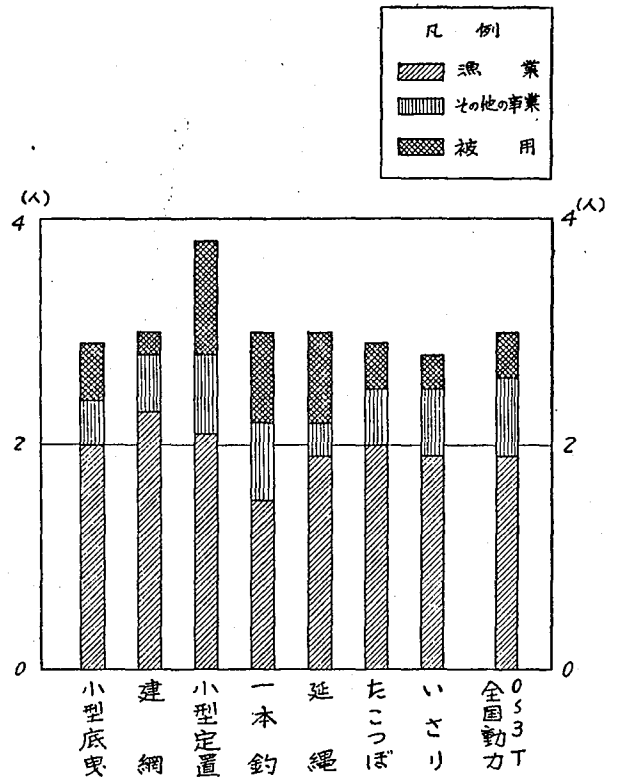
3、漁業労働時間と一時間当りの所得

第三図は、家族員及び雇用者が自家経営漁業に投下した海上労働時間と一時間当りの所得額である。(1) 海上で働く時間は、たこつぼ漁

第3図 漁業労働(海上労働)時間と時間当り所得



第2図 世帯員の従事状況



業が最高で乗組員平均四・五人、一日一〇・五時間操業し年間延一〇、八九六時間の労働である。最も少いのは小型定置で四、八三五時間となつてゐるが全国〇〜三ト階層平均四、六一八時間より多い。

(2) これを家族員と雇用者別にみると小型定置、一本釣、いさりの各漁業は家族中心の労働で雇用者の占める割合は全体の一七％〜三四％であるが小型底びき、延縄、たこつぼ漁業は家族員と雇用者の占める労働時間は大体同じである。全体では六・四で家族員の割合が高くなつてゐる。

(3) 一人一時間当りの純所得は、小型定置の五二円が最高でたこつぼ漁業の二三円が最低である。(この年のたこつぼ漁業は特に不漁であつた。)平均では、三七円で全国〇〜三ト階層の六一円より低い。

4 漁業収入と漁業支出

第四図は、漁業収入と漁業支出の一漁家年間平均額である。

(1) 漁業収入では、たこつぼ漁業が最高で一、〇三四千円、次いで小型底びき(九八九千円)、延縄(八一六千円)の順となり最低は一、本釣の三二六千円であつた。小型底びきの約三分の一である。全漁家平均は六九六千円で全国〇〜三ト階層平均の一三三％、三ト一〇ト階層平均の五六％の収入である。

(2) 漁業支出は、大体漁業収入に比例しておりたこつぼ漁業の七八三千円が最高で一本釣一三五千円が最低である。全漁家平均は四二八千円である。

(3) 漁業収入と支出の関係は、収入を一〇〇とした支出の割合はたこつぼ七六％、小型定置六七％、小型底びき六六％、延縄六四％、建網四八％、一本釣四二％、いさり二六％で全漁家平均では六一％となる。これは全国〇〜三ト階層の五一・四％、三ト一〇ト階層の七四・五％の中間値である。

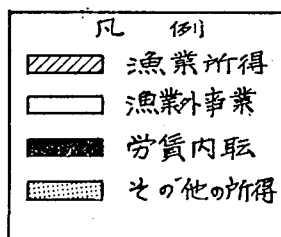
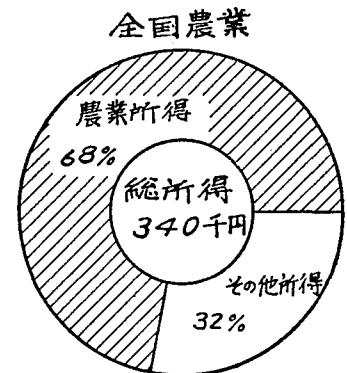
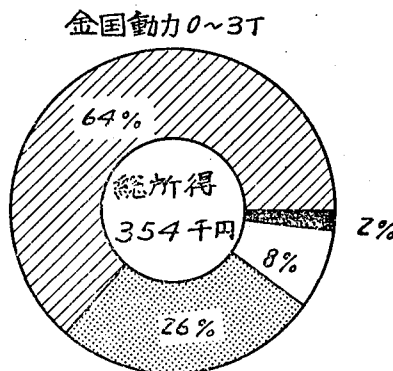
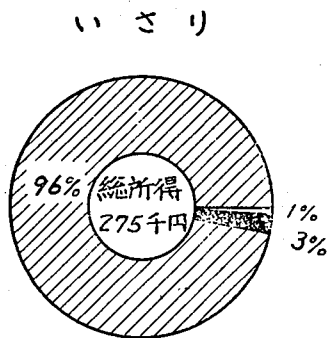
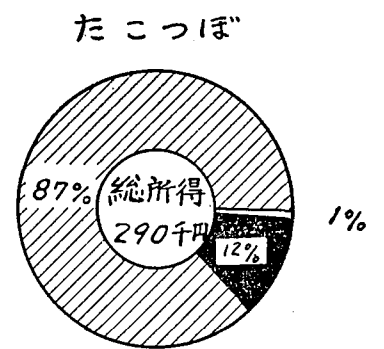
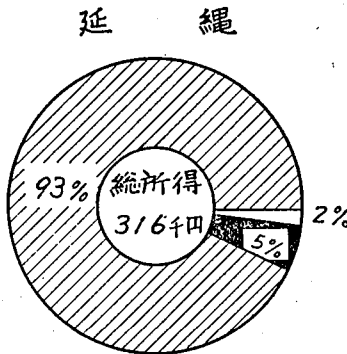
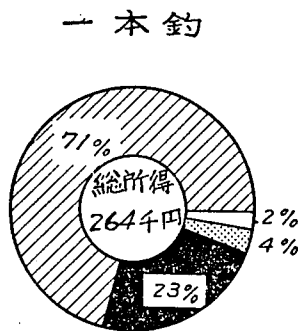
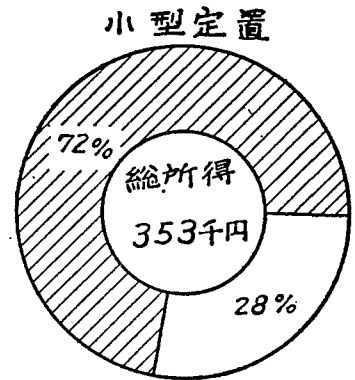
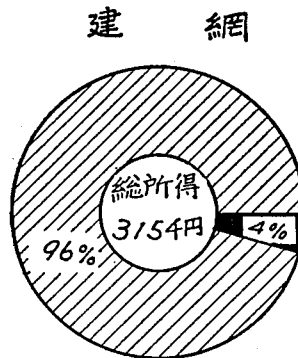
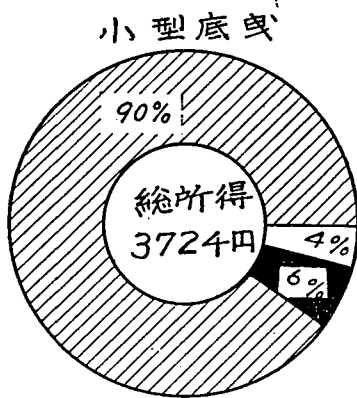
5、漁業支出の内容

第五図は、漁業支出を費目別に分けてその構成比率を示したものである。

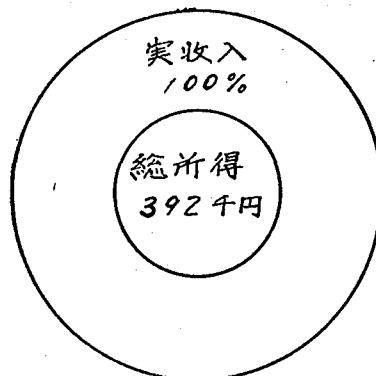
(1) 各業態とも雇費用が比較的大きな比率を占め平均三二％(全国〇〜三ト階層平均二七・五％)となつており次いで漁具費二四％(全国一一％)、燃油費二〇％(一四％)、漁船費七％となつてゐる。

第6図

漁家所得

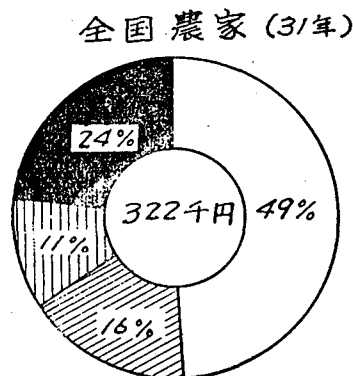
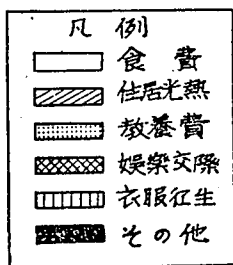
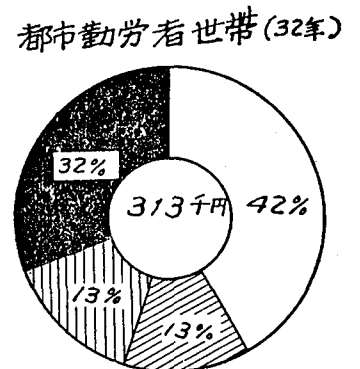
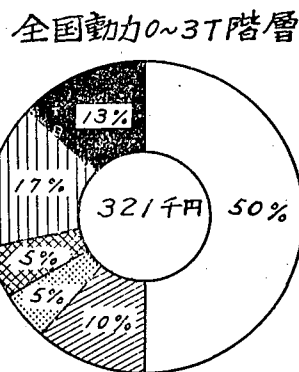
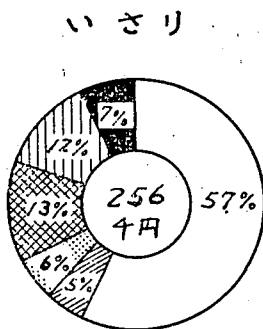
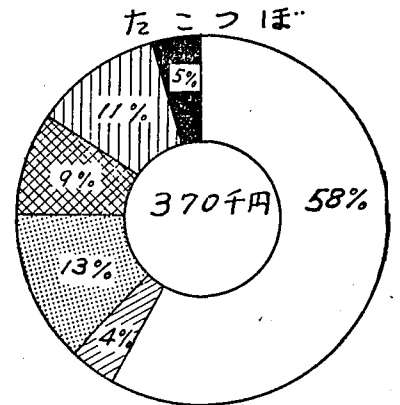
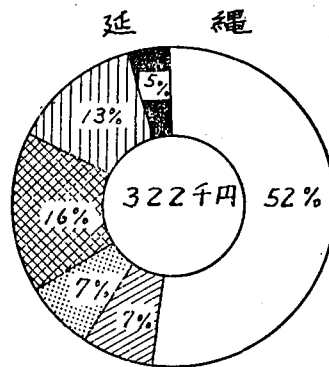
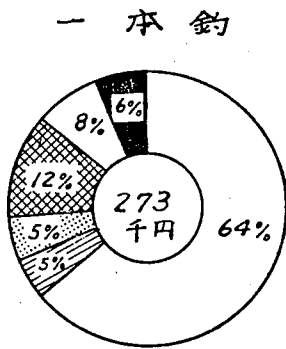
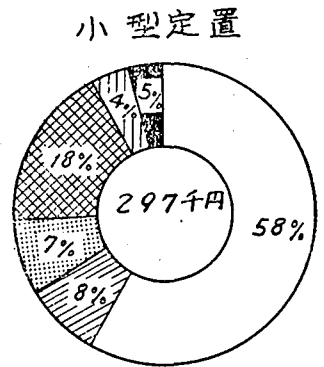
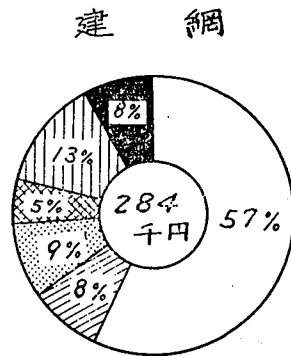
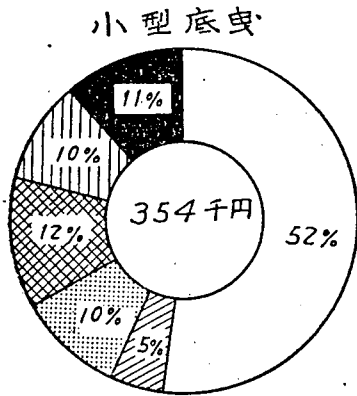


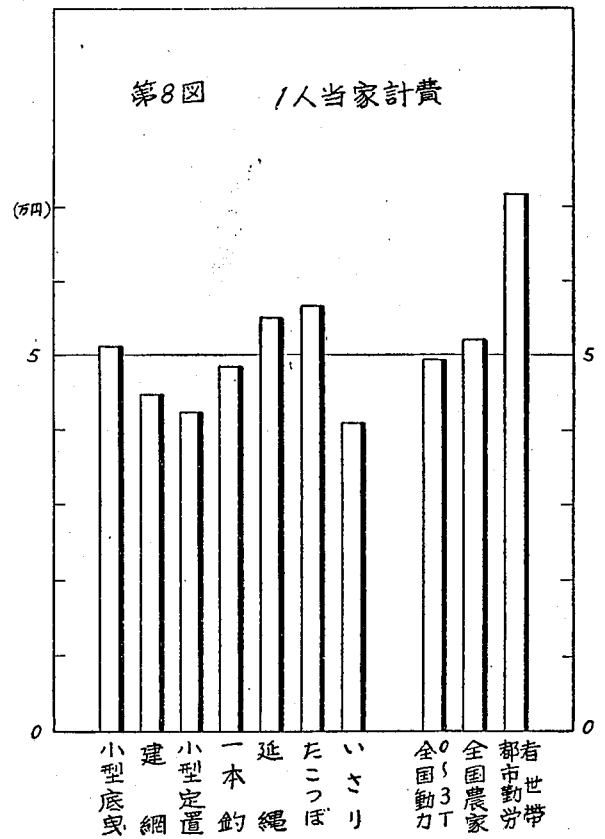
都市勤労者世帯



試験場が内海側の漁家について広範囲にわたって詳細な調査を行なっている。その結果報告を期待している。
(水産課調整係長)

第7図 家計費及びその構成





十二本の調査の柱

後半に入った集約経営調査

鹿ノ瀬海域を対象とする沿岸漁業集約経営調査事業は、本年七月、スタートして以後、漁協・漁業者ならびに関係市町村当局のなみなみならぬ協力のおかげで順調に進んでおります。この十月上旬、東京でひらかれた中間報告会での各府県の進行状況をみますと、本県は、今年からこの事業をはじめた一年生諸県のリーダーシップをとっているといつてもよく、心強く、またうれしく思いました。以下、かんたんに今までの経過と今後の計画を述べて、一層の支援をお願いします。

(水産試験場)

前の記事を読んでいない方のために

沿岸漁業集約経営調査とは？

「集約経営」とは、かぎられた資金・技術・労働力を最も有効につかって、生産する経営のことである。たとえば、日本の農業はせまい耕地を二毛作三毛作など、二倍にも三倍にもつかい、その上に養蚕とか、鶏を飼うとか、乳牛を飼うとか、畜産収入を求めると、外国にくらべるとずっとせまい土地から相当の収入——すくなくとも、東南アジア諸国で最高の収入をあげている。

日本の沿岸漁業をたてなおすのには、せまい漁場を有効に活用するほかないであろう。つまり沿岸漁業の集約経営のほかにわかない。そのためには全国の沿岸漁村をいくつかの類型にわかち、その類型での集約経営のパターン(やり方の模範例)をうちたてる必要がある。こういう目的で昭和三十二年度から、国の予算と府県の予算と半分ずつ出しあつて調査がはじまつた。全国でいま十四県で進行中である。

各界の専門家をあつめて

集約経営調査の脳ズイを形づくるのが、調査班会議である。調査班会議は、どういう方法で調査をすすめるか、あるいは、調査の成果をどう結論づけるか、ということを討議決定するものである。

そのメンバーは、次のように各界の専門家を集めてたいへんすぐれたものである。

水産試験場長

水産課長

水産庁瀬戸内海事務局資源課長

農林省兵庫統計調査事務所水産課長

神戸大学理学部植物学教室

同 教育学部水産学教室

兵庫農科大学経済学教室

姫路短期大学家政学教室

調査班会議できまつたことは、主として、水産試験場が実施してゆくが、なかには大学に仕事をおねがいしているものもある。たとえば、漁家経済調査では、姫路短大にいろいろお世話になつている。また、今後、大学の専門研究者に調査や分析

をお願いすることになつてゐる。

漁家経営分析の概要

集約経営調査は、大別して三つになる。

(1)、社会的、経済学的な面から調べる「漁家経営分析調査」

(2)、漁場や技術を自然科学的な面から調べる「漁場総合利用調査」

(3)、そして(1)と(2)の調査の結論からみちびかれる対策を試験的に実施してみるための「半企業化試験」

調査は、まず(1)の漁家経営分析調査からはじめられた。本年度の重点

はこの調査にある。調査の第一年度にあつて、まず、調査対象の漁村

の経済のしくみを知り、問題点が何であるか、をつかむことがその目的

であるから、単に学術的な資料を得るためのものでない。

この調査を細分すると六部になる。最も重要であり、かつ仕事の量

が大きいのが、漁家調査である。個々の漁家について、その暮しむき漁

業のやり方、労働の配分をくわしく調べる。……といつても、すべての

漁家(この調査地域には、約四千六百の漁家がある)を調査するわけに

いかないので、まず全漁家について簡単な調査を行なつた上で、ある限

られた数の漁家をくわしく調べるという標本抽出法という方法を採用した。すでに四千六百枚の調査カード

が水試に集つてゐる。また一〇一戸についてくわしい聞取調査を完了、

さらに三十戸が毎日の収入・支出・仕事を記帳する精密調査を明年六月

末まで一年間継続する。

これは一軒一軒の漁家の経営の調査であるが、内海では数戸の漁家によつて漁業をする共同経営がひろく

行われている。これを調べるための共同経営調査。

部落や地区の社会経済的になしくみやそのなりたちを調べる集落調査。

ここでは、特徴的な漁村を实地について調べもするし、漁家世帯カード

の分析によつて十年後の漁家人口の状態なども推計する。

漁業協同組合や水産加工業協同組合がどのように運営されているか、

その問題点は何か、を知るために行なうのが、組合調査。

操業調査によつて、漁業調整問題がどうかわつてきたか、現状はどう

なつてゐるか、法規との関係はどうかというむつかしい問題をときあか

そうと試みる。

獲れた魚がどういう値段で取引されるか、季節によつて値動きはどう

なるか、を消費流通調査によつてしらべる。

漁場総合利用調査

経営分析調査が人の方からの調査であるなら、海の方からの調査が、

漁場総合利用調査である。これも細分して六部とする。

鹿ノ瀬の地形や底質をくわしくしらべるための海洋調査。

資源調査は、資源の実態を把握するためのものだが、その性質に応じて、(1)底魚 (2)いかなこ (3)たこ

(4)磯魚 (5)藻類 (6)回游魚の小区分にわけ、それぞれ異つた方法でしらべる。

漁具漁法調査は、主要漁具約十種を対象とする。

工場汚水調査は、阿閉村、加古川市、高砂市などの地先漁場について行なう。

養殖調査は、のり、わかめ、貝類かん水養魚などについて適地、経営

問題などをしらべる。とくにのりについては冬季閑漁期対策として最も

有望であるのでくわしく調べる予定である。

またこの海域の重要漁獲物であるイカナゴ、カタクチイワシなどは、

いずれも加工品として市場へ出まわ

る品であるから、加工調査によつてその実態をあきらかにする。

以上を一覧表にすると次のようになる。

一、漁家経営分析調査

(1) 漁家調査
世帯カード調査、聞取調査、精密調査

(2) 集落調査
(3) 組合調査 漁協組、加工協組

(4) 共同経営調査
(5) 操業調査
(6) 消費流通調査

二、漁場総合利用調査
(1) 海洋調査

(2) 資源調査 底魚、いかなこ、たこ、磯魚、藻類、回游魚

(3) 漁具漁法調査
(4) 工場汚水調査

(5) 養殖調査 のり、わかめ、貝類、かん水養魚

(6) 加工調査

一問一答
——スゴク盛沢山なプランですネ。

調査、調査調査調査……とたたみこまれると、私のように頭のお

弱い者は、それだけでポーツとしてしましますワ。

——判つたヨ。君のいいたいことは

、盛沢山の計画もよいけれども、効果をあげてほしい、ということなんでしょう。

——全くそのとおり……。そこでズバリと答えてほしいのですが、この調査の答えから、われわれ漁民の役に立つことが出てきますか。

——出ますトモ。かならず出てきます。失礼だけれども、半年ばかり……といつても実質三月余りなんです。漁家調査をやつた体験から

いって、漁家がこれ以上改善の余地がないほど立派な経営ぶりとは、みえなかつたですからネ。

——ナルホド、そういわれたらそのとおりでしょうが、具体的な改善対策をききたいのですが……。

——その対策をたてるためにこの調査をやつていのですヨ。三年計画の一年目が半分すむか、すまないかで、そんな質問は困りますナ。

——ですが、そこをカンをはたらかせて……。

——僕はあいにくときような便利なカンなど持ちあわせないけれども……まア、数字の基礎ぬきでよいなら、対策の「芽」とでもいえたいものを話しましょうか……たとえば、今年、高砂沖の

上島の南に県費一千五百万円を投じて大型漁礁を沈設することになったでしょう。

——それは知つていますが、あれは沿岸漁業総合振興対策事業であつて、集約経営調査とは別ものでしょう？

——そうです。しかしその間には有機的な連絡がなければならぬ。政府の予算でも隣りあわせですヨ。

——向う三軒両隣り、回覧板がトンカラリですか？

——チャチャをいれないでください。この大型漁礁を沈めるのは、本年度の沿岸漁業振興対策です。その後、明年以降で、この大型漁礁をどういう効果があがつている

か、を調べるのは集約経営調査のひとつの仕事になるでしょう。ナルホド、そういう関係ですか

——内海の漁家は冬越しに困つてい。これを何とかしなければならぬ。これは集約経営調査の大きな課題です。

——この答えは、いくつかある。すでに実行している地区があるからです。あなたもご存知でしょう。

——ハイ、まずノリ養殖……
——播州方面で近年非常に盛んにな

つて来ました。経験の深い漁家であれば冬の間に十五万円の水揚げさして困難ではありません。

——その他に？

——今年の春に、北淡町富島でブームをまきおこしたワカメがありまして。これは四月一カ月間イカナゴをとるのをやめてしまつたくらい大きな収獲でした。期せずしてイカナゴの資源対策にもなつたわけですネ。

——また淡路東浦ではバカ貝の増殖が考えられます。この場合は、流通問題にもアイ路があるように考えられます。

——加工ではどうですか？

——加工の問題には二つの面があります。ひとつは、専門の加工業者の技術と経営を改善して魚価へのはねかえりを期待する面と、漁業者による一貫加工によつて漁家の経営を合理化する面と……。

——そのふたつは互いにムジユンするのではないのでしょうか？

——必ずしもムジユンとは思いませんネ。漁業者と加工業者はもともと共存共栄でいくのが健全な漁村のあり方なんですから。漁業者による一貫加工をすべての場合におしとおそうとすると無理ができる

のだと思います。
——無理でないのはどういふ場合ですか？

——飯屋の森部落の婦人たちが昨年ころろみた漁獲物の自家加工は、よい方の例だと思ひます。しかし、これにはいろいろの問題が含まれていまして、集約経営調査の中にふくめて改善策を考えてゆきたいと思ひます。

——話が変わりますが、先月、全国の府県水試が集つて、この調査の報告会をひらいたそうですが、いかがでしたか？

——大変よい勉強になりました。この調査は宮城県・愛知県・北海道などでは非常に漁民のかたがたに期待されていますネ。私どもも大いに努力して兵庫県の皆さんに喜んでもらおうと念願しています。
——よろしくお願ひします。
——いや、こちらこそどうぞ……。

(兵庫水試・川越技師)



聞きある記

漁村の簡易加工

婦人部副業には最適

淡路水産製品展示協議会の巻

——いつであつたか、淡路水交会長塩崎義民氏が「漁村には、まだまだ残された収入源がある。それは最も手近に、すぐとりかかれる水産物の簡易加工だ」と話されていたのを思い浮べる——というのは、兵庫県水産課が主催で、第一回淡路水産製品展示協議会が、ここ洲本市は炬口に

ある県淡路水産指導室で開催されているからである。
沿岸漁業の生産性の向上が、とくに叫ばれている折から、雑魚または未利用魚の活用が図られ、これによつて収益が増加すれば、とりもなおさず漁家経済の立ち直りに一役を助けることになるというもの、しかもこれが、漁村における婦人部の副業として成り立つことになるはずれば、その効用は、また期して待つべきものがあるといえそうである。

淡路における未利用魚とはいったいどのようなものであろうか。そして加工の方法はどうするか、製品の売り方はどうか、沿岸漁業者の関心を集めているこの催しに、サレば漫坊も、ペンを担いで推参に及んだ次第である。

(漫坊)

「炬口」でバスを降りて、道は大きく左側に迂回している。埃をやりすごしながら、二階建の指導室にやってくる。漁村婦人の人たちが受付のところに見えた。

入つて右手が展示室になつており、一足踏み入れると、まず貝細工の宝船が目につく。それから順に淡路名産としてよく土産物品にできる干カレイ、干タコ、そして専門加工業者そのものの干エビ。漫坊は、しきりにためつすがめつ一品ずつ見て行

こうと身構えたとたん、ボンと肩を叩かれて振り返つた。指導室の後藤技師である。

「どうです、なかなか力作があるでしょう」

「ええ、婦人部の人たちも熱心にやつておられるんですね」

「そりやネ。しかしこうして一堂に並べてみると、やはり比較検討ができるから、役に立ちますよ」

「準備は大変だつたでしょう」

「皆さんの御努力ですよ」

後藤技師は、この催しについて明かす声で話しをつづけそうにして、フと腕時計を見ると、

「あつ、もう二階で協議会が始まる時間です。どうぞ二階へ……また後でネ」

と急がしそうに事務室の方へ見えなくなつた。

漫坊は昨日、県水産課で、森沢課長さんとの会話を思い出した。

「要するにネ、こんどの催しは第一回ですから、よほど慎重にやり方を持つて行かないと、第二回以後の催しにひびいてくることになるワケです。それで、効果がどれほどあるだろうか、これをいいかえてみると、製品の改良であるとか、或いは出

荷の方法であるとかの技術的な問題も、もちろん重要ですよけれども、この魚がこうすれば売れる、引取者がたしかにいる、ということにならないと効果があがらないことになるのです。ひらたくいうと批評とともに実取引にすぐさま結びつかないと意味がないワケですね」

「なかなかむづかしい問題だと思えますけど」

漫坊が頼りなさそうな顔をしたと見えて、森沢課長さんはキレイな白い歯をニコリとほころばせ、

「一挙にもつて行くのには無理でしょうけど、要するにこの展示協議会の講師にですね、いわゆる名匠を持つて行くこと。これがまず最初のカギだといえますよ。助言者で、しかも、製品を引取つて売つてみてもよい」といふ人ですネ」

「それはどんなメンバーです？」

「県水試はもちろんです、民間側から、神戸市中央卸売市場の塩干物仲買の組合長の寺阪さん。この人は市場流通の実力者です。それから兵庫県佃煮工業協同組合長の浜口さん。それに珍味加工の万国物産株式会社、浜本社長さん。洲本市のうずしほ商店の人。兵庫県職業補導所の人といつた構成です。たしかに期待

していいですよ。今度の催しはね」
こういわれて森沢課長さんは、漫
坊がペンを走らせる手もとをじつと
眺められたのであつた。

二階に上つてみると、講師の紹介
が終つていた。

指導室長の小黑さんが、キビキビ
と司会をされる。参加者は婦人の数
が殆んどを占め、また県水産業改良
普及員の淡路フルメンパーがみえる
晩秋の陽射しが、森沢水産課長さ
んから、県水試三上場長さん、県水
産課生産係長の森本さんの方へずつ
と流れ、県水試の助川製造課長さん
のメガネが、時折りピカリと鋭く光
る。

まず一般的な出品物の批評があつ
たが、これは各製品とも、原料の処
理、とくに水洗いや血抜き、切り方
に意を用うる必要があること、それ
から製品出来上りの形の整え方等に
工夫を払う点が指摘された。

以下、主要点を要約すると、ほぼ
次のようになる。

1、キスは仮屋等で、干キスなどに
つくられているが、価格が下ると
きは魚体が小さくなるものが多い
と見られ、このものについては、
味淋干の製造を行った方がよいと



(展示会の出品の状況)



(熱心な協議風景)

思う、よければ珍珠加工に引取る
ことを考えてよい。

また干キスの市場流通は調査し
てみる。

2、テンジクダイは頭部に石がある
ので、いままで肥餌料で困つてい
たらしいが、これはでんぶ(佃煮
)の原料になると見込まれる。頭
部をとつて煮乾品にすると、原料
として使える。

3、ヒイカは、都志の婦人部出品の
塩辛が目につつた。これはいくら
で売つたらよいか値段をすぐ知ら
せてほしい。値が合えば早速取引
してもよい。なお技術的な面につ
いては良品を得るよう留意するこ
と。

4、小エビの煮乾品は、福良から出
品されていたが、乾燥度もよい
し、値が折り合えばすぐ取引した
い。

5、ヒメガイは神戸中央市場へ送つ
てほしい。

6、トラハゼも、でんぶの原料とし
て立派に役に立つ。

7、フグは整形 品揃えに一考を要
す。
8、アサリも流通上で考えてみた
い。
また職業補導所から、周年できる

内職として、アイスキャンデーの割木のさしこみがある。とその見本を示して説明があり、希望者は漁業協同組合を通じて申し込みればよいというのであった。

以上が、ほぼ概況の要約である。

× × ×

会議は、午後四時まで熱心につづけられ、質疑は製品毎にこまかく行われた。

最後に、閉会の言葉を述べられた塩崎会長さんは、開口一番、まず沿岸漁業の衰えを語られ、しかし対策はあると語りをつづけられ、

「——この催しを機として、第二回、第三回と、見違えるように製品がよくなつて行くことを願いますと共に、何とぞ講師諸先生には、漁協婦人部の製品を可愛がり御指導たまりますようお願いする次第でございます」

と力強く結ばれたのであった。全員拍手のうちに会を閉じた。

この催しについて、おそらく出席者の誰もが、納得のいく説明と、明かるい希望を抱いたに相違ないと漫坊は、ひそかに思つたのである。

ある漁協職員のもの

楽 餓 鬼 帳

4 恩田さん

「これからの漁村は総合的にいつて、どんなことをしなければいけないか、たとえ夢に似たようなことでもよい、あなたの考えをいつてほしい」

海岸漁業振興総合対策調査に來られていろいろお調べになつた結果、あなたはぼくにこういわれた。

ぼくはその時ほんとに永の冬眠の頭を五トンのハンマーでどやされた思いがした。

夢……………

ぼくはぼくに漁村の振興や組合の発展のために今から思えば夢に似たようないろいろのことを考えては、君はほんとうに現実にかげはなれたようなことを思いつく」とよく一笑に附されたものだつた。

しかし、ぼくはいつも無い頭をしぼつては、その理想と現実の距離をいくらかでも短縮する努力をばらう

のがわれわれのつとめであるということをお忘れはしなかつたし、なにか新しいものを求めて止まなかつたものである。

それからのぼくはなるべく現実に副つて考えている間に何時か年に似ず若さを失つた。

今あなたにいわれて、やはりこの漁村に生れ、この漁村で暮らしているぼくは、もつと真剣に漁村の実態を把握して、そこから湧いてくるいろいろの気体を何かの方法で液体にし、さらに固体にまでもつてゆく考え方の訓練をもつともつとしなければならぬと痛感した。

——真剣に考えたと考えつくことが、考えられなかつたのは、まだぼくに真剣味がなかつたシヨウコであらう——

これからの漁民はただ漁村の漁民であるという意識から漁民であると共に市民であり、国民であるという心の持ち方に変えらるゝとすれば、そこ

にも改革の第一歩はあるし、将来の市民としてのあり方の上からくる現在のスケジュールの樹て方にも一時の痛め止めの注射のようなチヤチヤなものより大々的な手術をするような大きい構想が立てられると思う。

そして、それには先ずそんなものもろの計画に取りくむ手がかりに漁民や、ぼくらが馴れてゆくようにしなければいけないと思う。

最後に短時間であつたが、現地人がみた郷土の将来のあり方より調査官としてのあなたのヒントにはいたく耳に響いた点があり、ぼくは新しい漁村の理想と目的とを宿しているこの計画の本当の意義を識らなければと感した。

と同時に歩くことを習う前に走つてはいけないということを、この時ほど強く感じたことはない。

帰られる折にもあなたは「このたび振興課にいますので、なんなりと聞いて下さい」と温かくいわれた。

ぼくは今後ともこの言葉に甘えたいと思う。

事務局当時のぼくの同僚は県や、試験場や或いは水産会社の船に乗り組み、元気でいわゆる漁業の第一線で頑張つていることを思い合ひし、ぼくも郷土漁村のためにもつと何か

を考へなければ——と、その当時の若い血潮の循環をなつかしく感じた。今後ともよろしき御指導をお願いする。

五月十八日

5 まきぞえ

人間が人間を偽つたり
人間が人間を傷つけたり
人間が人間を殺したり
人間が人間を……

こうしたことが社会にかぎりなく、くり返されているのはいたまじい極みである。

ぼくらは平和を最高の憧れとして生きている。同じ星の下に時代を等しうして生をうけている因縁の浅からぬ人間同志である。現知事さんが御書きになつた「知事の手帳」に淡路の海は殊の外平和で美しい……とあつた。

この美しき平和であるべき淡路の海に漁民と漁民の反目や闘争が繰返されているという事実は遠い昔の語り草にならないものだろうか。

だが、こんな大きな問題は、一応組合長さんにおまかせして、そんな現実がもとで或る組合の職員と或る組合の職員までもがその闘争の渦中

に巻き込まれるのは、ぼくはぼくとして反対だ。

組々の性格なり、境遇なり、或いは進み方なりはその組合々々によつて大きく異りはするだろうし、又その職員はその方針をカツチリ胸にたたみ込んで行かねばいけないのは道理だが、口につばきを飛ばしながら相ゆずらぬ職員と職員との口論は、みつともない。

口論をやるのならばもつとやわらかく現実と真理を具体的に考え合つてゆくのが職員の務めのように思うし、そうでなければいけないと考える。

九月二十五日

6 ゲット・アウェイ

幾多の先駆がやがて漁村の振興になる礎石をほんとは玉をみがくの思いでつくり上げたものが、一夜の自然の気まぐれな悪作(ワルサ)で転禍しようとは?

「逃げたハマチ」を読ませて戴いて、ぼくは勝名のりを受けて悠々と花道をひきあげてゆく力士よりも肩を細めて土俵を下りてゆく負力士に拍手の声援を与えたい気持がはからずも湧いた。

(勝つた力士に贈る万雷の声援の中にぼくの一つのそんな拍手が何になろうとも、)

暑さに耐え心身共に疲労しきつて夜おそく帰つて行く片島さんのその頃少しやせて尖つた後姿が今でも目にいたい。

あの九月二十六日のことで心をいためていられる方は多いと思うが、責任と抱負と努力とそして魚に対する愛情と漁村の将来についての考えを総べてカクテルにして胸中深く秘めていた片島さんの心情は……しかし、そんなセンチメンタルな眉の暗さは捨て去つて、片島さんは新しい構想にまた胸をふくらませていくことと思う。

嬰兒はよく転ぶが、転んではまた立つて喜々として遊ぶ。嬰兒も大人も、嬰兒の転んだことは笑わない。常に嬰兒みづからが歩けるように努力しているからだ。

ぼくは養殖事業についても、現代の漁村の更生策についても無智であるが、何かのチャンスに恵まれて折角日の目を見た芽をできる範囲の協力でもつて生長させてやるべきだ：そんな漠然たる思いだけが強い。そして、ぼくは組合の協同による暖かさを漁民全部が心の底から感じ

てもらつたらナァーと考える。捨て石を積み上げてこそ初めて港を守る防波堤が完成される。その捨て石を使わないで、ぼくらは防波堤を作りたいという凡愚な考えを起し易いし、他を批判したいクセがある、いけないことだ。

養殖事業イコール漁民経済の向上ということについては勿論、ぼくにはわからないが、今後の沿岸漁民が開拓してゆく海への郷愁が諸先生方の思案の結論であるならば、漁民こそつてこの事業の完成に協力すべきではなからうか。

ローマーは一日にして成らず……だ天高し過去も未来もはるかにて
十月二十日

7 三本の矢

合併という花嫁の行進が
ただちに
葬儀の列に変じないために

大阪湾並びに瀬戸内海への咽喉であり、そこを上り下りする魚は豊饒で多種多様の漁業種類が、勤勉で優秀な祖先より受け継いで研究され今日に至つた。ぼくの住む漁村は恵まれた環境の中で発達してきた。だが、暫らく間を置いて考えると

き、いくつか挙げられる。これ等の長所は直ちに短所に置きかえられるということもいえるだろう。

私は先年、ぼくの漁村と友ヶ島の距りがもつと離れていたら、組合が三つにもなるようなことはなかつたのに、という結論に基く理由を数例あげて考えてみたものの、所詮そんな架空なもつとでケリのつくはずがなかつた。

やはり数多くの必然的にそうならざるを得なかつた理由と、それからくるところの深刻化してゆくだろう問題をもつと静かに凝視せねばと思つた。

一つの組織が二つになり、さらに三つに分立されたその日から現在までのプロセスの中に幾度かの機運やマスコミニューケーションが行われたとしても、それが全漁民に果してどれだけの刺戟になり得たであろうか。

曲線の美と直角の麗をミックスして、そこに生まれる近代建築のように、そうは簡単に参らぬのが人と人の和ではなからうか。

ぼくの漁村にも、漁業の近代化発展を中心に主張する漁民と、沿岸漁民の生活権、擁護をモットーに叫ぶ漁民の二層に分けられる(底びき一

本釣のということではなしに)と思ふ。

そこで合併というテーマでその要素をぼくなり考えようと数多く挙げられる。その中でやはり、漁業調整の手ぎわのよさが第一だろうと思う。けれどもよしんば漁業上の調整ができたとしても、自分が採らねば人にとられるという漁民の刹那主義が果して業種の異なる多くの漁民の上にアチヤストできるだろうか。

性格や趣味が、永年つれそう間に合致した夫婦や、似た者夫婦というものには世間にはよくあるが――夫婦でさえ、親子でさえ、兄弟でさえ感情の対立や考えが、こうも違うものかと思われれることも、ままあるのが人間が構成する社会であり生活でもあろう。

“網と釣とは、油と水のようなもので一しよになれない”

そんなたとえも分立当時はよく聞かされたが、先ず理想の旗印を合併にかかけ、現実のきびしさと、むづかしさを一つ一つほぐしてゆき漁民の多くが、こんな跛行状態が真に漁村の発展に大きなブレーキだと身に沁みて思う時が来たときに、合併による漁民の発展ではなしに、

相互理解による漁民幸福への金字塔が打ち建てられると思う。(誰かに作つてもらおうというのではなく自分たちでつくつていこうとする意欲のもとに)

全体的でもつて律した法律がどのようであるとも、今後法が如何様に改正されようとも、どのような組合の在り方が最も、この漁村に適合し最も経済効果を發揮し得て、漁民のため有利になるかという宿題と四ツに取組んで今こそ多くの漁民の結集された意気を發揮すべき時期ではなからうか。

それには、リーダー・シツプマンの絶えざる努力と善くするための大衆伝達が大きくクローズ・アップされなければならない……

合併への道は峻しい――が片時も漁民は合併への努力を忘れるべきではないと思う。

ぼくはそう思う。

十月二十八日



内海漁連設立十周年

記念式挙行政

本年度で設立満十周年に当る内海漁連では去る十月十四日水産会館に於て設立十周年の記念式を挙行政した。

当日来賓及び傘下会員二百余名が参集し十時半開式、会長挨拶、十年勤続役員(七名)職員(十六名)の表彰が行はれ、来賓祝辞があり十一時四十分頃式典を閉会し、祝宴に移つた。

吉田農林部長の主唱で万才を三唱しなごやかな雰囲気のうち午後三時祝宴を終つた。

われらの漁民銀行

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193
但馬支所 香住町中浜頭 香住125

購 買 品 は 漁 連 で

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424-5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
仮屋出張所 淡路町仮屋 仮屋 59

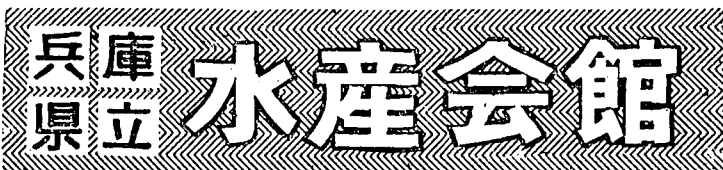
購 買 品 は 系 統 利 用

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 式

城崎郡香住町香住 電話香住 154

神戸市兵庫区
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)

発行所 神戸市兵庫区新在家町 123 兵庫県立水産会館内 兵庫県漁業協同組合連合会

発行人 三 浦 清 太 郎